

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200156		
法人名	株式会社 ハートフルケア		
事業所名	グループホーム ひなた庵		
所在地	栃木県足利市小俣町291-3		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受理日	平成24年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所してもうすぐ3年が経ちます。少しずつではあるがひなた庵が地域に知られるようになってきている。地域で行う行事(夏祭り等)には積極的に参加するように心掛けています。また、地域福祉ボランティアが主催する高齢者向きの催しにも出来るだけ参加するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは閑静な住宅街に位置し、小規模多機能型居宅介護事業所と併設されている。ホームでは家族や地域社会との関係を保ち続けながら利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者が、それぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送る事が出来る支援に取り組んでいる。また、地域住民の配慮により、手作りの看板を作成してもらったり、ボランティアの受入れ等地域との交流が良好である。なお、職員一人ひとりの運営に関する意見においても、実行に繋げている。食事も利用者職員が当日のメニューを考え、食材の買い出しに行ったりしている。利用者の思いや意向の把握に努めた支援に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関右側の掲示板に理念を掲げており、常に実践しよう心掛けている。	理念を玄関に掲示し、日々利用者に関わる際に、意識している。また、職員間で話し合いの機会を持ちながら、共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、出来る限り地域の行事等に参加するように心掛けている。また、地域を散歩し、地域の人たちとの交流に取り組んでいる。	自治会に入会し、回覧板や、月1回のふれあいサロン、夏祭り、子供達の神輿などに協力している。また、近隣を散歩して地域の方々との会話を楽しんだり、野菜等を頂くなど、事業所では地域との繋がりを継続しながら利用者が暮らし続けられるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して推進委員に活動内容を報告し、色々な意見を聞き、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議には、利用者家族、利用者、社会福祉協議会会長、民生委員、市職員等の参加により、開催している。会議では事業所から事業内容や活動報告を行い、参加メンバーからは意見や助言をもらいそれらを運営に役立っている。	運営推進会議は、ホームの応援団として、積極的に関わられるよう、働きかけて行く事が大切です。より多くの声を吸い上げる為にも家族の持ち回りの参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設での取り組みの相談はもちろん、他の相談事についてもわからない事はいつでも連絡を取っている。	市担当者とは、事業所の実情や取り組みを伝える際、問題を投げかけたり、電話での相談や資料を頂くなど協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな入居者についても身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者及び職員は身体拘束の内容やその弊害を認識しており、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。一人ひとりの身体状況や不安、混乱等精神面も考慮しながら、家族とも相談を行い、利用者が安全に過ごせる支援に取り組んでいる。日中は職員の見守りにより、玄関への施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の入居者に対する虐待は無いように常に目を光らせている。また、入居者同士に対しても喧嘩等が起こりにならない様に取り組んでいる。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の一人が成年後見人制度を利用しており、職員には必要性を話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者との契約に当たっては、必ず、家族が立ち会い、十分に説明し納得して頂き入所している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族が来所等には、職員から入居者の生活の様子を話し、施設に対して「何かありますか」と問いかけるようにしている。	家族からの意見や要望は検討・協議しながらサービスに反映させている。家族の来所時には利用者と買い物・食事等の時間を作り、より多くの意見や要望を出してもらえよう配慮している。また、入居時にはホームの苦情受付機関以外にも苦情を表せる機関がある事を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや定例職員会議(第4木曜日)等において意見を聞き取り組んでいる。	職員の気づきやアイデアを朝夕の申し送り時や職員会議等で吸い上げ、運営に取り入れている。また、個々の職員に応じた職員研修に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に職員を配置し、向上心を持って働ける環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外で研修(認知症実践者研修等)が学べるように機会を設けている。また、新しい職員については、必ず、教育する職員を付け、現場を学ばせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、足利市の施設職員(管理者、主任等)と交流を持ち職場に生かしている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム入所前に在宅訪問や施設訪問等をし、本人の意思、思い等を聞くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族からも現在困っている事や不安な事を聞くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとはどんな所なのか十分な説明をし納得した上で支援している。また、他利用サービスも含めた話も同時に話すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通して職員と入居者が会話をする機会を持ち、入居者中心の中から信頼関係を築くように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所時には、現在の本人の様子や思いを出来るだけ伝え共感を持ってもらえるように心掛けている。また、受診等の時には家族と一緒に外食が出来、気分転換も図れるように促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の家に行ったりして関係が続くように努めている。	家族等から、利用者がこれまで培ってきた人間関係や社会関係についての情報収集に努めている。馴染みの人の家や理美容室に行く機会を作り、つながりの継続が出来る支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自然に関われ、トラブルが無い様にテーブルの位置やホール環境を工夫するように努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても前入居者の相談があった場合は家族を含め支援する様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや意向に対してその場その場で考えたり、職員会議等で話し合い個々の入居者の思い、希望を出来るだけ取り入れられる様に取り組んでいる。	日々の関わりの中で声かけを行い、言葉や表情等から真意を推し測り、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、家族等からの情報も参考にして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴等を把握し本人に合った過ごし方が出来るようにと努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して個々の行動や排泄パターン等を日々観察し心身状態を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く過ごせる様に家族(キーパーソン)や必要な関係者を同席するように努め介護計画を作成している。また、来訪時、本人の現状を報告し対応している。	利用者及び家族からのニーズを確認し、職員の気づきや提案等も参考にしながら、個別具体的な介護計画を作成している。見直しは概ね3ヶ月を目安とし、状態に変化が見られた場合には、家族や医師とも相談しながら随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に関しては、抽象的な言葉は記入しないように心掛け、具体的な言葉(本人の言葉含む)で記入し、誰でもが情報共有するように努力している。変化がある場合は朝夕の申し送り等できちんと報告を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族関係を考慮しながら一緒に成年後見人制度に携わり柔軟な支援をしている。また、その時々生まれたニーズに対しては迅速に対応する様に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日、施設周辺の散歩等を通して地域の人たちと交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	てらうち内科小児科医院と協力提携を結んでおり、連携を取りながら日々支援を行っている。	入居時に利用者家族等に希望する医療機関を確認して、概ねかかりつけ医での受診であり、受診結果に関する情報は共有している。なお、通院の付き添いは家族対応にて行っている。また、毎月協力医による定期往診等もある。眼科、歯科等には家族等の支援にて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置されていない。しかし、同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携を取りながら日常生活の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の病状により入院の場合は、てらうち内科小児科医院を通して入院先(紹介状持参)を決めたり、情報交換を行いながら早期退院が出来るように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに対しては、本人、家族、主治医と綿密に相談しながら方針を決める様に努めている。	利用者や家族のニーズをくみ取りながら、安心と納得を得られるよう、協力医療機関や主治医等と連携し支援している。また、事業所側の状況を伝え家族等と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが普通救命講習等を行い救急時の対応が出来る様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成23年度は総合避難訓練を平成23年6月23日(地域住民参加)と平成24年3月15日に行っている。	消防署立会いで総合避難訓練と年2回防災訓練(通報訓練)と夜間を想定した訓練を行い、地域住民参加の下で消火訓練を行っている。災害時には、自動で職員の携帯に繋がる緊急システムが設置されている。備蓄は、フードマップに登録している。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者に対して言葉や行動に十分注意を払うように努めている。	年長者である利用者には常に敬意を払い、馴染みの関係にあっても、利用者の尊厳やプライドに配慮した本人本位の支援に取り組んでいる。言葉かけにおいても、利用者が自己決定し易い様に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の入居者に対応して各々の考えている事に耳を傾け、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人、家族等の思いに合わせ、日々の生活を支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容については、地域の店に行ったり、また、施設で出張サービスが行われるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必ず、朝昼夕とも職員と一緒に入居者が台所に入り調理している。また、準備や片付けも一緒に行っている。	食材は職員が仕入れているか、時折利用者も買い物に同行している。食事は、旬の食材や新鮮な物を取り入れ、利用者の好みや苦手な物を踏まえたメニュー作りや、選択食等を取り入れている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じ物を食べている。利用者の食事摂取量や水分摂取量等は健康チェック表にて確認している。	主治医によるカロリー計算の実施などは評価できる。今後は、必要に応じて市の栄養士との連携を図る事にも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の入居者の食事摂取量や水分等については毎日、変化がないか健康チェック表で確認し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをするように取り組んでいる。義歯(口腔状態)については、近藤歯科の往診で対応している。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し、排泄パターンを予測して失禁等をしないように個々の入居者に対して取り組んでいる。	利用者の健康チェック表を活用し、排泄パターンを配慮しながら、生活リズムに沿った声かけや誘導を行っている。オムツやパット等を使用している場合でも出来る限りトイレでの自立した排泄に向けた支援に取り組んでいる。排泄の失敗時には利用者のプライドや羞恥心に配慮し、人目に触れないようさりげない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者については、排泄パターンを予測して水分を多く摂取したり、また、お腹をさすったりと取り組んでいる。軽い散歩も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者に対して1回/3日のペースで入浴が出来る様に努めている。また、本人の身体状況に応じて柔軟に支援している。	入浴は週3回、15:30~17:30を目安としている。なお、季節湯や入浴剤を使用してリラックスして入浴が楽しめるよう支援している。入浴拒否者等に対しては言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者に応じてソファーを活用したりして転寝等を自由に出来るように支援している。就寝については入居者が自分の時間で自由に横になれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬内容は職員全員が理解するように職員会議で周知している。服薬内容が変わった入居者については、新しい処方箋を申し送りノートに挟み理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か日常生活で役割として関わりたい入居者や趣味(編み物、絵画等)をしたい入居者等に対して柔軟に支援するように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、施設周辺の散歩やドライブが出来るように外出支援に努めている。家族等からの外出についてもいつでも外出可能な様に取り組んでいる。	日頃からホーム周辺の散歩や、ドライブに出掛ける支援に努めている。弁当を持参したり、レストランにて食事をするなど、短時間でも戸外に出る機会を作り、ストレスの発散、五感刺激を得る支援に取り組んでいる。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと個々の入居者のお金を預かり、必要時に使える様努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には殺風景にならない様に草花(造花含む)を置いたり、季節感漂う飾りをつけたりと工夫するよう努めている。	共有空間は穏やかな自然光が差し込み、温度や湿度、換気等は適切に管理されている。窓際には畳のスペース等があり、和みの場所となっている。利用者が書いた習字等や寄付された絵、お花が飾られる等、季節感を感じられるよう工夫された空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人や何人かで気軽に座って過ごせる量があったり、ソファーに何人か座りながら過ごせる空間があったりと入居者が一人になったり、また、入居者同士交流が持てるように場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、特に物(危険な物除く)の制限はなく使いやすい様に本人・家族の意向を取り入れている。	プライバシーを大切にしながら、居心地良く安心して過ごせる居室作りに取り組んでいる。また、自宅とのギャップを感じさせないよう、馴染みの品々の持ち込み等、家族と連携しながら支援に努めている。桐箆笥や家族の写真等が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動、排泄、入浴等を含め、声掛け見守り一部介助をし、自立に向けるよう努めている		